

今朝は子ども祝福式礼拝です。子どもに祝福を祈るひと時が与えられたこと、それ自体が大きな恵みであると感じます。これからの未来を生きる子どもたちに、神様のお守りを心よりお祈りいたします。

いよいよエルサレムの山が見えてくる、旅の到着も間もなくという場所に、エリコという町はありました。何千年も昔、モーセの後継者ヨシュアが、城壁を破って攻め落としたという逸話の残る町でした。ナツメヤシとバルサムが茂り、バラ香る、名高い町だったそうです。エルサレム入場のプロローグとして、このエピソードは、特別な意味を持っています。それは、イエス様が届ける、明るく輝く救いの喜びです。

主イエスの姿を隠すもの

今日の主人公・ザアカイは、金持ちでありながら、持っていないものがいくつもありました。そして、それがイエス様の姿を見たいと思っても、妨げました。一つは「背の低さ」もう一つは「助けてくれる仲間」でした。お金を持っていても、どうにもならないことがあります。それは「ありのままの自分」です。人は自分の考え方からしか、物事を見ることができません。広い世界の真実があっても、自分の目線より高い世界は知ることができないのです。それを見る方法の一つは、友達存在です。自分の力は及ばなくても、協力してくれる仲間がいれば、その力で奇跡を体験することができます。4人の友達に助けられて、イエス様に会うことができた病気の男もいました。でも、ザアカイは嫌われ者でしたから、そんな人はいませんでした。イエス様に近づきたくても、見えるのは人の背中ばかりでした。

ラクダが針の穴を通る奇跡

それでも、ザアカイはあきらめませんでした。彼の名前は日本語で言えば「たたくくん」です。生来の心の中の真っ直ぐさは、ついに、彼をイチジクグワに登らせました。周りの人は「ザアカイ、何をしているんだい」とあざ笑ったでしょう。しかし、その涙ぐましい努力によって、彼はイエス様に会うことができたのです。そして、神の子である救い主が、木の下からザアカイを優しく見つめてくださったのです。主は「ぜひ、あなたの家に泊まりたい」と声をかけられました。少し前に、「ラクダが針の穴を通るより難しい」と言われた、救いの奇跡を、ザアカイは手にしたのです。

ザアカイは、イエス様に会って、心の中を喜びでいっぱいにして頂きました。友達も、自分の弱さも、全部イエス様が与えてくださったからです。名実ともに「たたくくん」となったザアカイは、自分の名前に改めて神様の愛を感じたでしょう。

イエス様は、この救いを届けるために、今も私たちとその家を招いておられます。